



外国人労働者の受け入れ対応

布田 恵美

**問** 外国人労働者の受け入れを拡大する改正入国管理法が2018年12月に成立した。今後市内における就労拡大を見据え現状の認識を問う。

**市長** 岩沼市においては、特に製造業が多いという特徴もあり、今後色々情報交換をしながら進めなければならぬと思っています。地域の皆さんと課題を話し合いながら受け入れる体制を整えなければ、後々のトラブルにつながるのではないかと思います。

**問** 住民サービスとしての相談窓口において、言葉のバリアは生じていないのか。

**市民経済部長** 窓口で困った現状はありませんが、自動の小型翻訳機等を3カ所の部署に配置し、ごみ出しの英語版パンフレットで対応しています。技能実習生等はサポートの方を介して説明する対応を行っています。

**問** 新たな法案の「特定技能2号」では配偶者と子どもを帯同、条件を満たせば「永住」も可能となる。外国人労働者の家族に対する就学

支援や受け入れ体制の検討はどのようなになっているのか。

**学校教育課長** 希望する場合には日本人と同様に無償で受け入れ、同一の教育を受ける機会を保障しています。教職員の英語による授業力向上の研修会の際にも、英語の他の国々の言葉や風習など国際理解も加えて行っています。

相互の文化交流の企画を

**問** 共に同じ地域に暮らす上で、外国人労働者に日本文化を学ぶ機会を提供し、地域文化との交流や相互理解の場が欠かせないと考えている。市民まつり、市民交流フェスティバルなど多くの市民が集う場においても、相互の文化交流などを企画して行っているかどうか。

**市民経済部長** 外国人労働者が地域の一員として暮らしていくためには、お互いの文化を理解することが必要です。その手段として、市や各種団体が主催するイベント参加を通じて交流を図ることは、効果があると思っていますので、検討していきます。



健康診断等

佐藤 一郎

**問** 健康診断の受診率向上に向けて31年度はどのような政策を考えているのか。

**健康増進課長** 受診率の向上策は、がん検診のクーポン券配布、市独自の検査項目の追加を行っています。夜間健診や土・日の健診の実施。受診の申し込みで未受診者に対し個別の勧奨通知で受診率アップにつなげたいと思います。

**問** がんは、早期発見、早期治療が重要であるが、健診により要検査等になった場合どのような対応を行なっているのか。

**健康増進課長** 検査結果に合わせて精密検査の案内を送付し受診を促し、必要に応じて専門医療機関を紹介しています。

人間ドック助成考えては

**問** 県内の仙台市、大崎市、石巻市、塩釜市、柴田町で人間ドックの助成を行っている。健幸先進都市として人間ドック、脳ドック、心臓ドック受診者に対する助成を考えるとどうか。

**健康福祉部長** 市民の健康意識の

向上、市民が自ら健康増進に取り組むのが重要と考えます。健康教室や相談、各種検診やがん検診の受診率向上に取り組んでおり、人間ドックの助成は考えていません。

**問** 施政方針では、今年より医療ウイッグ購入の一部助成があるが、柴田町では、40歳以上に6000円から1万2000円を助成している。友好都市の袋井市では、人間ドック、脳ドック、心臓ドックが上限3万まで、後期高齢者のドックは1万円を助成している。健康寿命を延ばし、医療費の節減のため、人間ドックの助成について、市長の考えはどうか。

**市長** 人間ドックについては、まだ1人当たり数万円の助成をするまでは考えていません。財政的なものもあり、市の健診をしていたが、不足項目を増やし、健康維持をしていたかのように思います。せっかくの提案ですので少し勉強してみたいと思います。

◎その他の一般質問  
・企業誘致